

ご使用方法

警告

運転中にスライドカバーを開けたり、切削室の中に手を入れないこと

ケガの原因になります。



禁止

異常時は、電源スイッチをOFF(切)にして電源プラグを抜くか、元電源を切って、すぐに最寄の販売会社へ連絡すること

異常のまま運転を続けると感電、火災の原因になります。



プラグを抜く

濡れた手で電源プラグなど電気部品に触れたり、電源スイッチを操作しないこと

感電の原因になります。



濡手禁止

切削室内の掃除や点検・刃物交換のときは必ず電源スイッチをOFF(切)にして電源プラグを抜き、手袋をはめておこない、刃先に直接手を触れないこと

ケガの原因になります。



禁止

注意

可燃性スプレーを近くで使用したり、揮発性、引火性のあるものを置かないこと

スイッチの火花などで引火し、発火の原因になることがあります。



禁止

氷のセットは確実にすること

不十分ですと氷が飛び出す恐れがあり、危険です。



確認

電源プラグを抜くときは、電源コードを持って抜かないこと

必ずプラグを持って抜いてください。電源コードを引張るとコードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。



禁止

氷押えのクギに手を触れないこと

ケガの原因になります。



禁止

1日の営業が終了したら、安全のため電源スイッチをOFF(切)にし、電源プラグをコンセントから抜くこと

電源プラグやコンセント部にホコリが溜まって発熱、発火の原因になることがあります。



プラグを抜く

運転中は、回転部(主軸・上下ハンドル)に手を触れないこと

ケガの原因になります。

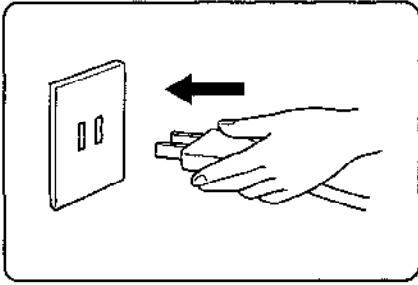


禁止

お願い

- (1) 霜が付くほど冷えた氷は硬すぎて切削には不適當です。透明になるまで待つて使用してください。硬すぎる氷を使用して削られた氷は粉のような「かき氷」になり、綿のような本来の「かき氷」にはなりません。また、刃物の刃先が損傷したりして、削れなくなることもあります。必ず透明になるまで「ゆるめ」てからお使いください。
- (2) 製品の上に物を載せないでください。

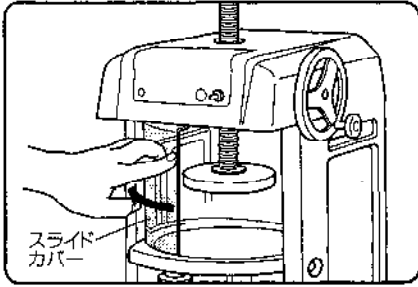
■ 運転の手順



1

電源プラグを差し込む。

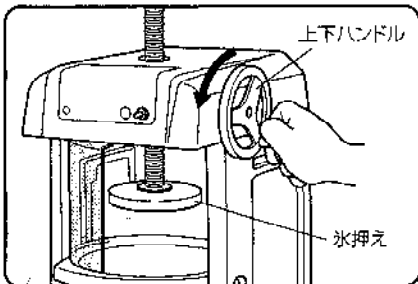
- 電源スイッチがOFF(切)になっていることを確認し、電源プラグをコンセントに差し込んでください。



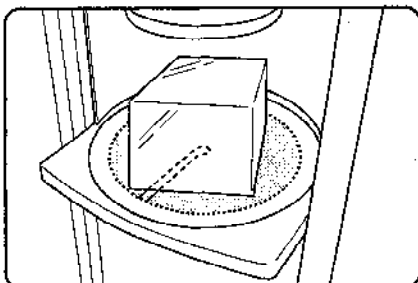
2

氷をセットする。

- スライドカバーを左に回して開けます。

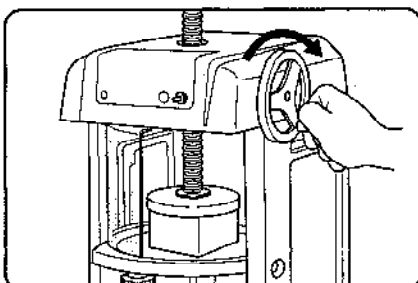


- 上下ハンドルを半時計方向に回して氷押えを上げます。
- 上下ハンドルから手をはなし氷押えが落ちないことを確認します。
※落ちるとケガをすることがあります。



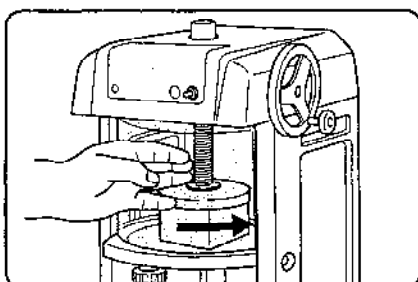
- 円盤の中心に氷をのせます。刃物よりはみでないようにしてください。(氷が削れなかったり、斜めに削れて氷が飛び出したりすることがあります。)

- 氷から手をはなします。

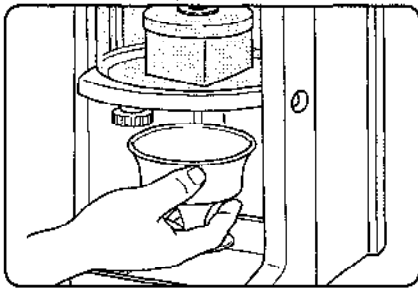


- 上下ハンドルを時計方向にまわし、氷に氷押えのクギをくい込ませて確実に固定します。

- ※不十分ですと氷が飛び出ることがあります。



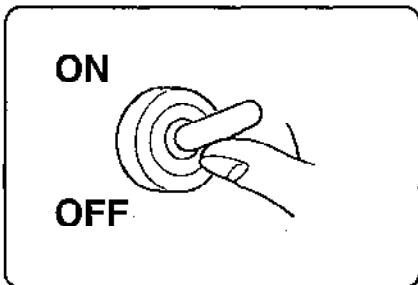
- スライドカバーを右へ一杯にまわして閉じます。ストッパーに当るまで回してください。不十分ですと、電源スイッチをON(入)にしても安全スイッチが働き、製品が動きません。



3

カップを受ける。

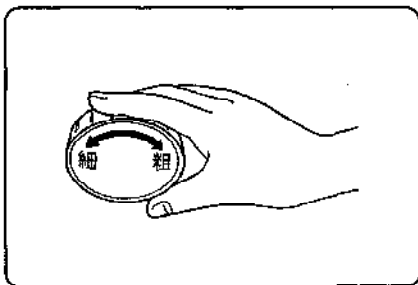
- 円盤の下にカップなどの容器で受けてください。



4

電源スイッチをON(入)にする。

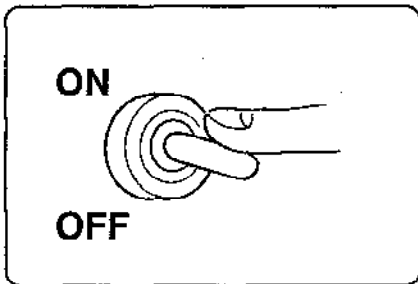
- 運転を開始します。



5

氷削粗さの調節をする。

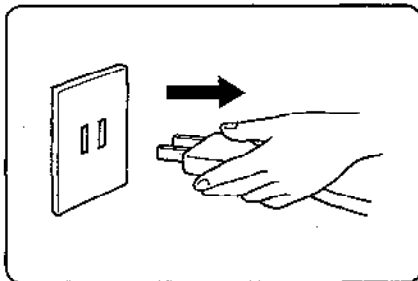
- 刃物調節ツマミをまわして、お好みの粗さにします。
標準粗さ約1mm(円盤上面から刃先までの高さ)
- 右にまわすと粗くなり、左にまわすと細くなります。
- 刃物調節ツマミ1回転で約1mm動きます。
回転可能範囲2~3回転



6

電源スイッチを切る。(運転停止)

- 電源スイッチをOFF(切)にしてください。



7

使用後は電源プラグを抜く。

- 1日の営業が終わったら電源プラグを抜いてください。

■円盤上の氷の取り出し方法について

⚠ 警告

氷を出し入れするときは、刃先に直接手を触れないこと
ケガの原因になります。



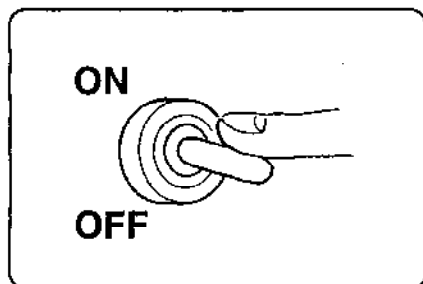
禁 止

⚠ 注意

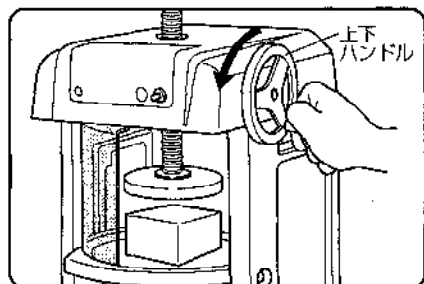
氷押えのクギに手を触れないこと
ケガの原因になります。



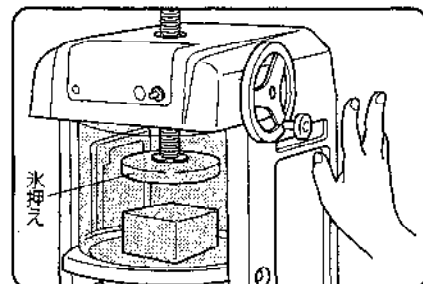
禁 止



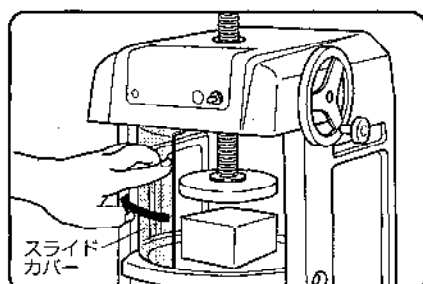
1 電源スイッチをOFF(切)にします。



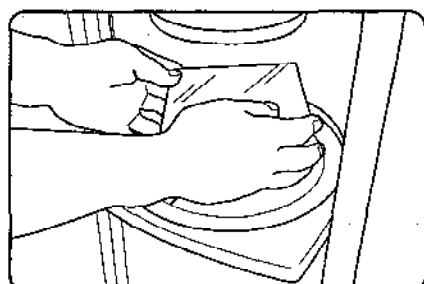
2 上下ハンドルを反時計方向に回して氷押えを上げます。



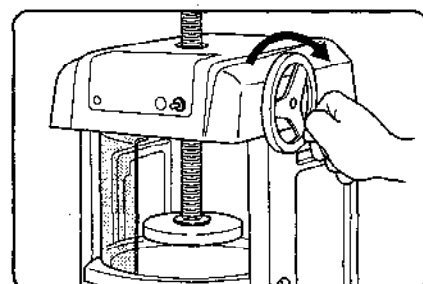
3 上下ハンドルから手を離し、氷押えが落ちないことを確認します。



4 スライドカバーを左に回して開けます。



5 円盤から氷を取り出します。



6 氷押えは、上下ハンドルを時計方向に回して下げておいてください。

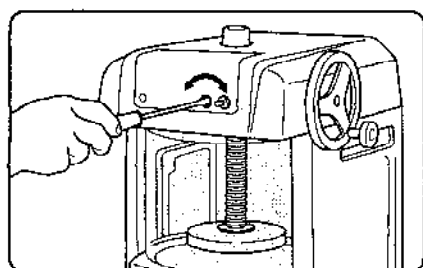
■強弱調節ネジについて

⚠ 注意

強弱調節ネジの調節は上下ハンドルから手をはなしても氷押えが下がらないよう調節すること
ケガの原因になります。



調 節

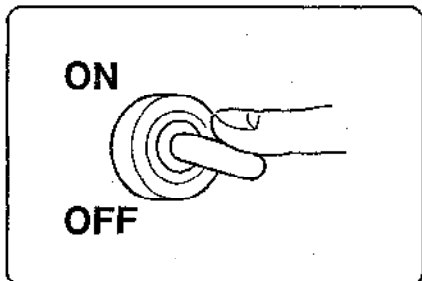


氷を押える力の調節に使います。

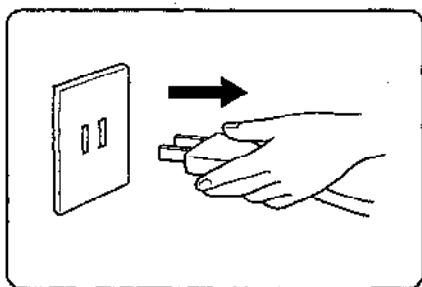
- 調節には⊖ドライバーを使用します。
- 右へまわすと強くなり、左へまわすと弱くなります。
- 上下ハンドルをまわして力を確認します。
上下ハンドルから手をはなしても下へ下がらず、
上げる時に重くない程度が最適です。

■プロテクターについて

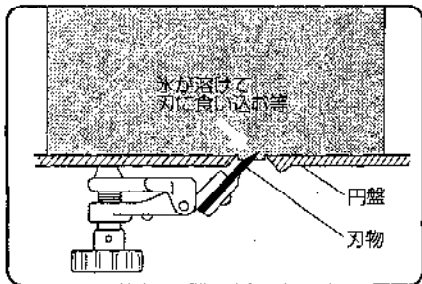
- モーターに負荷がかかり過ぎると自動的に製品を止める装置です。
- プロテクターは、電源スイッチ付近に取付けてあります。
- 作動したとき（赤ボタンが出た状態）は、次の処置をしてください。



1 電源スイッチをOFF(切)にする。

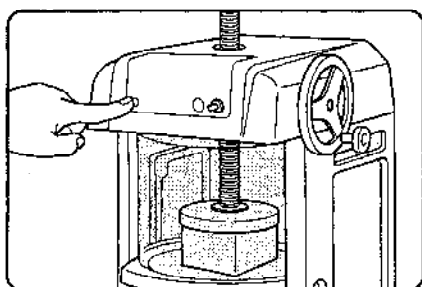


2 コンセントから電源プラグを抜く。



3 過負荷の原因を取り除く。

(例)刃物が氷にくい込んでいる。この場合は氷のセットをもう一度やり直してください。



4 赤ボタンを押して復帰させる。

※プロテクターがたびたび作動する場合は販売会社にご相談ください。

■安全スイッチについて

- 氷削運転中にスライドカバーを開けると、危険防止の為、安全スイッチが働き製品が停止します。
- 安全スイッチを電源スイッチのかわりに使うことは絶対にしないでください。故障の原因になります。